

令和 2 年度シラバス

教科名	公 民	科目名	現代社会	履修学年	1 年生	履修形態	必 修
単位数	2 単位	時 数	70時間 (50分授業)	担当者名		山 林	満

教科書	実教出版『高校現代社会 新訂版』		副教材	浜島書店『最新図説 現社』			

学習目標	<p>少子高齢社会・高度情報化社会等と言われる現代社会は、国際化・グローバル化がますます進むなかで、福祉か経済優先かの岐路に立たされている。そこに生きる我々は、いま何を求めて進まなければならないのか。前半は、現代社会と青年、政治のしくみと諸課題を中心に考え、後半は現代経済のしくみと諸課題を学ぶ。</p>
指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会を学ぶ上で、政治や経済にかかわる様々な用語を正しく理解する。 ・社会生活を送る上で「社会規範」を理解し、それに従って行動することが求められるとともに、自身や他者の基本的人権を理解し、尊重して行動することも求められる。その基礎として、「日本国憲法」や様々な「法令」の内容や特色について指導する。

学期	考 査	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点			
					関	思	技	知
第 1 学 期	中 間	第1編 現代社会の諸課題	2	・青年期の意義や青年期の課題について学習し、人間の在り方、生き方について関心を高め、主体的に考察する。	○	○		○
		第2編 現代社会と人間としてのあり方 生き方						
	期 末	第1章 青年期の自己形成	4	・自己の人生観・世界観の形成を図る。宗教や先人の哲学思想を学び自らの生き方の方を考える。	○	○		○
		第2章 他者とともに生きる倫理	4					
第 2 学 期	中 間	第3章 現代国家と民主政治	5	・社会契約説、基本的人権の保障や立憲主義などの民主政治の基本原則について学習する。	○			○
		第4章 日本国憲法と国民生活	6					
	期 末	1節 日本国憲法の成立		・日本国憲法の制定過程、明治憲法との違い、平和主義を学習する。	○			○
		2節 平和主義と日本の安全						
第 3 学 期	中 間	第4章 日本国憲法と国民生活	15	・基本的人権の尊重について学ぶ。 ・戦後日本の政党政治の特徴、選挙制度について学習する。また、現代民主政治の課題について考察する。	○	○		○
		3節 基本的人権の保障 ～9節 政治参加と世論						
	期 末	第6章 現代の経済社会と政府の役割	8	・資本主義の原理・問題点を学ぶ。 ・戦後経済の成長と安定、その背後にある社会問題の内、中小企業・農業問題と公害と環境保全の課題を考察する。	○		○	○
		第7章 経済活動のあり方と国民福祉	8					
第 3 学 期	学 末	1節 日本経済の歩みと近年の課題						
		2節 中小企業と農業						
第 3 学 期	学 末	3節 公害防止と環境保全						
		第7章 経済活動のあり方と国民福祉	12	・低成長下の日本経済において顕著となった労働に関する課題や社会保障が抱える問題点を考察し、将来の担い手としての自覚を高める。	○	○		○
第 3 学 期	学 末	3節 消費者問題						
		～6節 社会保障						

学 期	年 末	第5章 国際政治の動向	3	・国際政治のしくみについて学習する。	○			○
		第8章 国際経済の動向	3	・国際経済のしくみについて学習する。	○			○

計70 時間 (50分授業)

※ 評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現
技：技能 知：知識・理解

(評価の観点)

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評 価 の 観 点	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を分析・統合し、効果的に活用して学び方を身に付けている。	経済分野において、四則演算や少数・分数の計算能力が求められる。また、単位処理の理解力も必要となる。簡単な計算や単位の処理を習熟した後、一定のスピードで正確に処理する。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
評 価 方 法	・授業への取り組み ・授業プリント・課題・提出物等	・定期考査・小テスト ・質問に対する発言や発表 ・課題	・授業プリント ・小テスト	・定期考査・小テスト ・質問に対する発言

担当者から一言	現代社会の諸問題に対して、常に疑問を持ちながら探求することで、社会に対する正しい知識や見方・考え方を得ることができます。現代社会の特質、経済・政治などの基本的な仕組みを理解するとともに、日本国憲法をはじめとする様々な法令に触れることで社会人として必要な素養を身に付けましょう。また、現代の経済は、全て数量で把握されます。授業を通じて、最低限の数的処理能力を身につけましょう。
---------	---